

第5学年題材

「せんたくばさみの大冒険」

講師：福岡市立愛宕小学校 秦 千暁先生

★題材指導の考え方と指導の実際

1. 図画工作科学習について

○造形遊びとは

- ・図画工作の学習内容は「表現」と「鑑賞の二つ」
- ・「造形遊び」

…材料や場所、行為などから始まる

身近にある材料や場所などに進んで関わり、その色や形などの特徴から自在に発想し、楽しい造形活動を思いつき、持てる力を存分に発揮し思いのままに進める造形活動。

- ・「絵や立体、工作」…明確な目的があって始まる。

2. 導入の工夫

〈発想・構想・表現〉

①「材料体験」をさせる。

めあてを提示後 5 個程度の洗濯ばさみを与え、せんたくばさみでどんな組み合わせができるかを自由に活動する中で見つけさせる。

②全体交流する。

見つけたせんたくばさみの組み合わせ方を全体で交流する。

③500 個の洗濯ばさみを見せる。

1 人 40～50 個の洗濯ばさみを配布する。さらに欲しい人は求めに応じて増やすことができる。



3. 表現

「活動の提案をする」

①美しさを意識して組み合わせよう。

面白い組み合わせや線を見つけて楽しんでいく。その過程でせんたくばさみの材料としてのよさに気付いていった。

②材料としてのせんたくばさみのよさ

☆ やり直しがいくらでもできること。

「こわして、また組み立てて…」

☆ 身近な材料で手軽に自分の思いを広げられる。

☆ 立体での造形遊びは、曲線、直線、放射状の線など思いを広げられた。

③活動の工夫

- ・画板の上で活動することで、回転しながら製作したり持ち運んだりすることができる。
- ・画板の色や台紙の色を変えることで、せんたくばさみをより際立たせることができる。

4. 鑑賞



①自分の作品に題をつける。

- ・自分の作品を見立てて、イメージを題名にする。

②題名を書いた紙を裏返して鑑賞し合う。

- ・鑑賞する人が自由に色や形に着目して、題名を想像できる。
- ・表を向けてどんな題名なのかを知って、一人一人の感性の違いを体験する。
- ・鑑賞者が自由に考えてから、題名を知ることによってつくった人の思いを感動を持って味わえる。

第6学年題材

「骨組みアンバランス」

講師：福岡市立愛宕小学校 秦 千暁先生

★題材指導の考え方と指導の実際

1. 造形遊びで大切なこと

○驚きのある造形遊びを

造形遊びで大切なことは、子どもたちにとって「驚き」があることだ。日常では味わうことのできないワクワクする活動が根底にある。造形遊びは「材料をもとにした」活動であり、こどもの主体的な活動を優先するものである。



2. 導入の工夫

〈発想・構想・表現〉

① 「材料体験」をさせる。

つまようじ4本と粘土を与え、つまようじと粘土玉でどんな組み合わせができるかを自由に活動する中で見つけさせる。

② 全体交流する。

見つけたつまようじと粘土玉の組み合わせ方を全体で交流する。

【見つけた形の紹介】

- ・ つまようじを直線に並べて粘土玉でつなぐ。
- ・ つまようじをジグザグに並べ粘土玉でつなぐ。
- ・ つまようじ3点で支えることで立体をつくる。
- ・ 1本のつまようじの真ん中に粘土玉をつけ、そこから骨組みを足していく。

③ たくさんのつまようじと粘土を配る。

1人30～40本のつまようじと粘土を配布する。さらに欲しい人は求めに応じて増やすことができる。



3. 表現

「活動の提案をする」

① 美しさを意識して骨組みをつなげていこう。

面白い組み合わせや線を見つけて楽しんでいく。その過程でつまようじと粘土の材料の良さに気付いていった。

② 材料としてのつまようじと粘土のよさ

- ☆ 粘土は、好きな場所につまようじをさしたり、角度を変えたり自由にできる。
- ☆ やり直しがいくらでもできること。
- ☆ 身近な材料で、手軽に思いを広げられる。

③ 活動の工夫

- ・ 画板の上で活動することで、回転しながら製作したり持ち運んだりすることができる。
- ・ 紙コップを配布し配られた材料を入れさせることで、紛失を防いだり取り出しやすくしたりする。

4. 鑑賞

「せんたくばさみの大冒険」と同時に、同じ方法で行いました。

授業研究部会

*福岡市小学校図画工作教育研究会

公開授業研究会にむけて

当日にむけて発問、板書、授業の流れ、資料、作品などについて各学年に分かれ活発に論議を行いました。